次期学習指導要領 校種別ガイド　高校

高校版

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けに

高校の先生のための
次期学習指導要領ガイド

単位の数え方を細かくし、学校が科目を組み立てる自由を広げる案です。





たとえると　たとえるなら、千円札でしか払えなかったお店で、五百円玉も使えるようになるようなものです。1単位を35コマから17コマに細かくし、半年ごとの学びも単位にしやすくします。たとえ話で、制度はまだ案の段階です。

この冊子の中身

1 高校の大きな変化
2 変わらないこと
3 先生の毎日はどう変わりそう？
4 全教科10秒早見表（高校）
5 いつから？（改訂スケジュール）
6 よくある質問
7 全教科の先生の準備チェックリスト

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ
研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

1 高校の大きな変化

1 1単位を17コマに（新単位）

いまは35コマで1単位なので、半年だけの学びは単位にしにくい仕組みです。次期は1単位を細かくし、50分の授業17コマを1単位の標準にする案です（新単位）。半期の学びでも単位を認めやすくなります。卒業に必要な単位は148新単位とすることが適当とされました。2学期制への移行を前提にしたものではないとされています。P42 P46

いままで	→	これから（方向）
50分×35コマで1単位、卒業には74単位が必要です。	→	50分×17コマを1単位の標準にし、卒業は148新単位とする案です。

2 科目を学校で組み替えられる

内容が重なっていても、別々の科目として学ぶ必要がある、という課題が指摘されました。次期は、科目の目標の趣旨を損なわないなど3つの要件のもと、学校の判断で科目の内容を移したりまとめたりできる案です。必履修科目も対象です。既存の科目の内容だけで作った「組替え後科目」は、単位数の上限を設けない方向です。P42 P43 P44 P45

いままで	→	これから（方向）
原則として、科目の間で内容を移したり入れ替えたりはできません。	→	一定の要件のもと、学校の判断で必履修科目も含めて組み替えられる方向です。

3 減単（単位を減らす）の見直し

減単とは、標準より少ない単位で科目を学ぶことです。いまの必履修科目は、原則として減単できません。次期は、生徒の実態などに照らして必要な場合、一定の限度の下で認める考え方に改める案です。たとえば今は減らせない2単位の必履修科目（4新単位）も、1新単位の範囲で減らせます。ただし教科の合計が3新単位以下になる減単はできません。P47

いままで	→	これから（方向）
必履修科目の減単は「原則不可」で、2単位の科目は減らせません。	→	「一定の限度の下で可」を基本とし、2単位の科目も減らせる方向です。

4 英語・数学の履修免除

すでに十分な力がある生徒のための仕組みの案です。社会的に信頼された外部試験の合格など、3つの要件をすべて満たす場合に、必履修科目の履修を免除し、ほかの科目に振り替えられます。まずは外国語と数学からです。英語ではCEFRのB2レベル相当以上が考えられるとされています。学校が必ず実施しなければならない仕組みではありません。P42 P48 P49

いままで	→	これから（方向）
高い力がある生徒も、必履修科目を初めから履修する必要があります。	→	要件を満たせば、学校の判断で履修を免除し、上位の科目などに振り替えられる方向です。

5 週30コマの標準をなくす

週30コマが標準とされているため、3年間で90単位以上を履修するのが一般的です。これは卒業に必要な単位を大きく超えています。次期は、週当たりの授業時数の標準を示さない案です。卒業に必要な単位を修得できる範囲で、各学校が週の時間割を柔軟に組めるようになります。 P42 P51

いままで	→	これから（方向）
週30コマが標準で、3年間で90単位以上の履修が一般的です。	→	週30コマの標準は示さず、学校ごとに週の時間割を組める方向です。

6 学校独自の科目を広げる

学校独自の教科・科目（学校設定教科・科目）を、卒業単位にもっと多く入れられるようにする案です。
普通科では、卒業単位の4割程度にあたる28単位（56新単位）までとすべきとされました。
地域社会学科などの「その他普通教育を主とする学科」では、必履修以外の全て（70新単位）まで認める方向です。 P45 P50

いままで	→	これから（方向）
普通教育を主とする学科では、学校設定教科・科目を卒業単位に入れられるのは20単位までです（専門学科は今も上限なし）。	→	普通科は56新単位、「その他普通教育を主とする学科」は70新単位まで広げる案です。

7 英語・国語・数学の科目が変わる

英語の科目名は、「英語コミュニケーション（総合）（仮称）」と「英語コミュニケーション（発信）（仮称）」に変わる方向です。単位数は今と同じです。数学Ⅰには「数学ガイダンス」「社会を読み解く数学」が加わり、最大8新単位程度に増える案です。数学A・B・Cは一つの選択科目にまとめます。国語は選択科目を組み直します。 P80 P81 P82

いままで	→	これから（方向）
英語は英語コミュニケーションと論理・表現、数学はⅠ～ⅢとA・B・Cです。	→	3教科で科目名や構成が変わり、ほかの教科は現行どおりの方向です。

8 情報Ⅰ・Ⅱの充実

高校の情報科は、中学校までの積み上げが十分でないため、基礎に時間が割かれていると指摘されました。次期は、情報Ⅰ・Ⅱの内容を充実させ、データサイエンスやAIに関する内容を強める方向です。大学に進まない生徒も含め、高校卒業生全員に力を育てるとしています。数理・データサイエンス・AIを、日常や仕事で使いこなせる力（リテラシーレベル）です。 P72 P74

いままで	→	これから（方向）
情報Ⅰ（必履修）・情報Ⅱがあるものの、基礎に時間がかかっています。	→	データサイエンスやAIの内容を強め、全員にリテラシーレベルの力を育てる方向です。

2 変わらないこと

多くの教科の科目名・単位数

科目の再編や名前の変更が示されたのは、外国語・国語・数学の3教科です。それ以外の教科の科目は、名前も単位数も現行と同様とされています。国語の必履修科目の構成と単位数、英語の単位数も今のままです。P80

年間35週の授業週数

小・中学校は「年間40週を標準」に改める方向ですが、高校の全日制は事情が違います。標準と実態に大きなずれはないとして、年間35週を標準とする今の決まりを維持することが適当とされました。P51

3つの力の柱で育てる

知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性等という3つの柱で力を育てる考え方は続きます。次期は、その示し方を、力のつながりが見えるように整理し直す方向です。P7 P13 P16

「総合的な探究の時間」

高校の「総合的な探究の時間」という名前はそのままです。小・中学校のほうが、高校と同じ名前にそろえる方向です。小学校から高校まで、一貫して「探究」を大切にする形になります。P77

3 先生の毎日はどう変わりそう？

授業では、単元を通して身に付けたい理解や力から計画を立てる形が求められる方向です。評価では、態度のABCをやめ、所見欄での一人一人の伸びの評価（個人内評価）と、思考・判断・表現の評価に「○」を書き添えることを組み合わせる案です。評定を学年末だけにまとめてもよいと明確に示すべきとされています。時間割は、週30コマの標準がなくなり、半期ごとの科目選びもしやすくなる方向です。ICTは、デジタル学習基盤を常に使える前提で考えます。

4 全教科10秒早見表（高校）

教科等	高校で変わること（10秒）
国語	必履修は現代の国語Ⅰ・言語文化Ⅰ。選択は現代の国語Ⅱ・言語文化Ⅱと発展4科目に再編 話す・書く・読むを「話や文章の機能」でつなぐ教科へ
地理歴史・公民	科目名は現行どおり。地理総合に導入単元を新設、「公共」の事柄・課題は13→10に精選 覚える社会から、問いと確かな情報で探究する社会へ
数学	数学Ⅰに「社会を読み解く数学」等を加え最大8新単位程度に。数A・B・Cは1科目に統合する案 小中高を6つの分野でつなぎ、証明と批判的思考を育てる
理科	「科学と人間生活（8新単位）」1科目で必履修を満たす道を新設。各基礎科目に科学ガイダンス 小中高を4分野でつなぎ、デマに流されない科学の目を育てる
理数	理数探究基礎・理数探究は現行どおり。文理横断（STEAM）の課題も充実し、全校で指導 理系だけでなく文理をこえたテーマで、全校で探究を
芸術	Ⅰの科目で芸術の全体像や学ぶ意味を考える機会を設ける。書道は字形等を〔共通事項〕に 思いをもつことから表すまでを、一続きの学びに
家庭	ホームプロジェクト等を各領域の「生活の課題と実践」に。家庭総合に新F領域を追加 領域を5つに再編し、中学校では独立した教科に

教科等	高校で変わること（10秒）
情報	情報Ⅰ・Ⅱの構成は維持。AI・データサイエンスを加え、両科目の最後にPBL（課題解決学習） 小は総合に「情報の領域」、中は新教科、高は情報科を充実
保健体育	専門教科「体育」を「スポーツ」に改称。保健は健康・安全の「概念」と「原則」を軸に 身に付けたい「動き」と、運動の多様な楽しみ方を軸に
外国語（英語）	英語コミュニケーション→同（総合）、論理・表現→英語コミュニケーション（発信）に改称 AI時代も人と伝え合う力を、段階を追って育てる英語へ
専門教科（産業教育）	全専門教科でAI・データ活用と経営の学びを充実。課題研究は履修学年を示さない 専門高校の学びを、AI・データと産業界との協働で強める
総合的な探究の時間	名称は現行どおり。自分の在り方生き方に関わる「マイ探究」を自分で進められる姿を目指す 小中も「総合的な探究の時間」へ。一人一人の探究を深める方向
特別活動	ホームルーム活動（小中は学級活動）を「学級経営の要」に。キャリア・パスポート例示資料は廃止 子供が学級・学校をよりよく創る「社会創造」の活動へ

5 いつから？（改訂スケジュール）

高校の学習指導要領の改訂（告示）は2027年度末（令和9年度末）の予定です。実施は2032年度（令和14年度）の入学生から学年ごとに進む見込みです。単位制の見直しは、2029年度か2030年度（令和11年度か12年度）に先に始める方向です。どれも予定で、変わることがあります。

年度	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034
幼稚園等	審議・答申	周知	全面実施						
小学校	審議・答申・告示	周知	先行実施	先行実施	全面実施				
小学校の教科書		著作・編集	検定	採択・供給	使用開始				
中学校	審議・答申・告示	周知	先行実施	先行実施	先行実施	全面実施			
中学校の教科書			著作・編集	検定	採択・供給	使用開始			
高等学校	審議・答申	告示（年度末）	周知	先行実施	先行実施	先行実施	入学生から	2年生まで	全学年
高校の教科書				著作・編集	検定	採択・供給	使用開始（学年ごと）		

文部科学省「学習指導要領等の改訂に関するスケジュール（イメージ）」（令和8年10月5日 第136回教育課程部会 参考資料7。「今後変更の可能性がありうる」と注記）より。

6 よくある質問

Q 新単位になると、学習量は減りますか？

単位の数え方を細かくする案で、今の1単位はおおむね2新単位にあたります。卒業に必要な単位も74単位から148新単位になります。必履修科目全体の学習時間は、今の1330コマから1326コマと、わずかに減る計算が示されています。 P46 P81

Q 外部試験で基準を満たした生徒は、必ず免除しないといけませんか？

いいえ。要件を満たす生徒がいても、必ず免除しなければならない仕組みではありません。時間割が合わない、希望者が少ないといった事情もあるためです。学校として実施できる場合に選べる仕組みとされています。振替先の科目などは、今後解説等で具体的に定めるとされています。 P48 P49

Q 2学期制にしないといけませんか？

いいえ。新しい単位の数え方は、2学期制への移行を前提にしたものではないとされています。2学期制の学校は、前期・後期で単位を認めやすくなる利点があります。3学期制でも、新単位の数を2の倍数にすれば、これまでと同じように運用できるとされています。P46

Q 単位制の見直しは、いつから使えますか？

2029年度か2030年度（令和11年度か12年度）に先に始める方向です。具体の年度は、都道府県教育委員会などの検討状況を見て決まります。その前の2028年度からは「高校版サキドリ研究校」を指定し、事例づくりを進める方向です。P51

Q 数学Ⅰの時間は増えますか？

数学Ⅰに「数学ガイダンス」と「社会を読み解く数学」を加え、最大8新単位程度とすることが適当とされました。今の3単位（6新単位）より増える案です。そのぶん数学Ⅱを6新単位（3単位）に減らすなど、数学全体の学習量が増えないよう調整する方向です。P80 P81

Q 情報Ⅰの指導が不安です。支えはありますか？

国が、授業でそのまま使える授業動画を含む教材を作り、少なくとも1年に1度は新しくする方向です。高校情報科の免許を持つ先生を増やすため、全国規模の免許法認定講習なども進めるとされています。AIの利活用に関するガイドラインも改定される方向です。P75 P89

7 全教科の先生の準備チェックリスト

- [ ] 単元づくりの出発点が「教科書のどこまで進むか」から「どんな資質・能力をつけたいか（統合的な理解・総合的な発揮）」に変わる。今から、単元を通した本質的な問いや論述・レポートなどの課題を考える練習ができる。国は教科等ごとの単元構想の参考イメージを示す。P13 P22 P28
- [ ] 「統合的な理解・総合的な発揮」だけを取り出して評価規準を作る必要はない。ただし「A：十分満足」の判断などで踏まえるので、評価と無関係ではない。P15 P68
- [ ] 「主体的に学習に取り組む態度」のABC評価のために、ノート提出回数などの材料を集める作業はなくなる方向。学びに向かう力は総合所見での個人内評価と、思・判・表への「○」の付記に変わる。単元ごとの○付けは求められない。P62 P63 P65
- [ ] 各学校で「内容のまとまりごとの評価規準」を作る作業は不要になる方向で、単元の目標をそのまま評価規準にできる。評定へのまとめは学年末だけでもよいことが明確にされ、学期中は形成的評価（途中でのフィードバック）に力を注げる。P69 P70
- [ ] 思考・判断・表現の評価は、ペーパーテストや業者の単元テストに偏らず、論述・レポート・口頭試問・プレゼン・作品制作などを核にする方向。AIに頼った成果物への対策として、口頭試問やブラウザ閲覧を制限するソフトの活用例も示されている。P26 P63 P64
- [ ] 1単位17コマの新単位、科目の組替え、必履修科目の減単拡大、週30コマ標準の廃止などが提案されており、実現すれば学校独自の教育課程の幅が大きく広がる。先行実施は令和11年度か12年度（具体の年度は今後決定）、令和10年度から高校版サキドリ研究校。活用状況はカリキュラム・ポリシーの一環としてウェブで公表する。P42 P46 P47 P51 P52
- [ ] 英語と数学の外部試験で十分な力がある生徒について、学校が実施可能な場合に必履修科目を免除して上位科目等に振り替えられる仕組みが提案された。英語はCEFR B2相当以上が基準として考えられるとされ、対象の試験や数学の級などは今後解説等で決める。必ず免除しなければならない仕組みではない。P48 P49
- [ ] 数学Ⅰの学習内容に「社会を読み解く数学」「数学ガイダンス」を加えて最大8新単位程度とし、数学A・B・Cは一つの新選択科目にする案。国語・英語も科目名や構成が変わる方向（新しい科目名はいずれも仮称）。P80 P81 P82

- [ ] 学習の自己調整や学習方略の指導が重視され、一律の宿題から、子供が家庭学習の内容を自分で決められるよう段階的に指導する方向が示された。国が具体的な指導資料を出して支える。 P10 P28
- [ ] 特別活動では、校則を含む学校生活の課題を話し合い、納得解・暫定解をつくる活動や、児童会・生徒会の提案・意見表明、学校行事の企画・運営を子供が担うことが位置付けられる。キャリア・パスポートは例示資料が廃止され、学校による引継ぎは求められない。 P10 P11 P61
- [ ] 総合では、テーマ探究とマイ探究をバランスよく組み合わせ、研究系・行動系に加え創作系の探究も認められる。小中の名称は「総合的な探究の時間」に。外部に協力を求めるときの留意事項も国が示す。 P11 P77
- [ ] カリキュラム・マネジメントは単元配列表づくりが目的ではなく、「ねらいの明確化→編成・実施・調整→評価・改善」の3ステップ。形骸化した取組を見直すことも重視され、そのための協議時間に裁量的な時間を使うこともできる。 P83 P84 P85
- [ ] 道徳は一つの教材を複数コマで扱う教科書構成や、チームで行う道徳授業の推進が打ち出されている。読み物教材の数は精選され「深める教材」が展開される。 P11 P61
- [ ] 教科書は精選され、教科書「を」全部教える前提が見直される。調整授業時数で時数を減らしても内容をおおむね扱える分量を目指し、指導書でも問いや評価課題、学習過程の構造が示される方向。 P22 P58 P89

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**（校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」（https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る